

## トウホクサンショウウオ

*Hynobius lichenatus* Bouleger

【選定根拠】 a 分布域の一部で個体数が減少 b 分布域の一部で生息条件が悪化

【形態】 成体の全長は10～14cm位。他種との区別は卵のうの形態を比較し行うのが良い。本種の卵のうは、らせん状または、「の」の形になることが多い。半透明で表面にしわが多く、とても柔らかい。

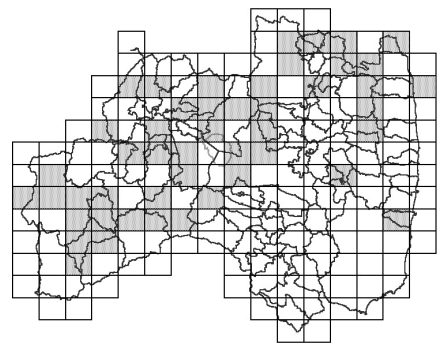
【分布】 日本固有種で東北地方および新潟県・群馬県・栃木県に分布する。

【県内の分布、生息状況】 会津地方と阿武隈山地北部に広く分布する。阿武隈山地南部は、目撃例が少なく、分布の南限に近いと思われる。4～5月ごろ、林内または林のそばにある湧き水・水たまり・水田・緩やかな流れなどに産卵する。水路整備の影響を受け、減少傾向が著しい。

【生息に影響を与えている要因】 水路整備 森林伐採 農薬汚染

【特記事項】 林のそばにある水田の水路は、産卵場所になる可能性が高いので、三面張りのコンクリートにしないことが望ましい。また、産卵場周辺の林は大規模な伐採をしないことが望ましい。

【生息データ件数】 99



## クロサンショウウオ

*Hynobius nigrescens* Stejneger

【選定根拠】 a 分布域の一部で個体数が減少 b 分布域の一部で生息条件が悪化

【形態】 成体の全長は12～16cm位。種の区別は卵のうの形態を比較し行うのが良い。本種の卵のうは、アケビ状白色で表面が寒天質に覆われ、非常に柔らかい。水中の枯れ枝などに鈴なりに生み付けることが多い。

【分布】 日本固有種で東北地方、関東地方の北部、中部地方の日本海沿岸に分布する。

【県内の分布、生息状況】 会津地方と阿武隈山地北部、原町市と鹿島町の丘陵地帯に分布する。低地から高地まで幅広く分布する。3～6月ごろ、林内または林のそばにある池沼・水たまりなどの止水で産卵する。

【生息に影響を与えている要因】 池沼開発 土地造成 森林伐採 帰化競合

【特記事項】 産卵場には天敵となる魚を放流すべきではない。また、周辺の林は大規模な伐採をしないことが望ましい。北塩原村の裏磐梯では、沼地の埋め立てやオオクチバス・コクチバスの食害などによって減少が著しい。

【生息データ件数】 38

【主要文献】

稲葉 修(1999)阿武隈山地の福島県地域における両生類と爬虫類。福島生物, (42): 25-34.

